

地域の食文化を支え農業と市民生活のつながりを深める

食育や農業体験を充実させるとともに、農福連携・ボランティア・シェア農園などを通じて市民が農業に関わる機会を広げます。集落活動と農業の関係を再構築し、地域とともに歩む仕組みを築きます。

施策目標5 地域とともに歩む農業



基本方針

- ①食育・農業体験による地域の食文化と農業との理解促進
- ②農福連携、市民参加型農業（ボランティア・体験農園等）の推進
- ③ワーケーション、シェアファーム等の新しい関わり方導入
- ④地域組織と連携した農業インフラ維持体制の構築

基本方針	内容	想定される施策
①食育・農業体験による地域の食文化と農業との理解促進	<ul style="list-style-type: none">・学校・保育園での農業体験を拡充し、子どもたちに食と農の大切さを伝えます。・市民向けの収穫イベントや農業体験ツアーを開催し、農業にかかわる入口を整えます。・赤須さといもなど信州伝統野菜の利用機会を増やします。	<ul style="list-style-type: none">・学校・保育園、市民向け収穫体験の実施
②農福連携、市民参加型農業（ボランティア・体験農園等）の推進	<ul style="list-style-type: none">・障害者就労支援組織と農業者との接点を広げ、農福連携の拡大に努めます。・農業ボランティア制度等について検討し、農家と市民が協力できる仕組みを整えます。・区画貸体験農園の整備を検討し、家庭菜園感覚で農業に触れる機会を提供します。・高齢者や子育て世代など幅広い層が参加できる多様な農業参画プログラムを検討します。	<ul style="list-style-type: none">・農福連携認証制度の導入検討・ボランティア制度の導入検討・体験農園の整備

基本方針	内容	想定される施策
③ワーケーション・シェアファーム等の新しい関わり方導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーケーション型プログラムを企画し、都市部の人材が農業に参加できる仕組みを検討します。 ・シェアファーム整備を検討し、共同で農地を活用する取り組みを支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーケーションプランの策定 ・シェアファームの整備
④地域組織と連携した農業インフラ維持体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・JAや営農組織との協働をより強化し、情報共有と相談体制を充実させます。 ・観光分野と連携し、農業を地域の産業・文化として支える仕組みを構築します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JAや地区営農組合との連携強化 ・観光業との連携強化

評価指標

指標	総合計画	現状値 (2025年)	目標値 (2030年)	備考
市民農業体験イベント開催数（累計）		—	25回	5地区営農組合で年1回を想定
市民農業体験イベント参加者数（累計）		—	250人	1回10名を想定
農福連携に取り組む農家数（累計）		20件	25件	

